

広域・同時多発災害対応訓練（2/20 実施）実施要項

災害科学・レジリエンス共創センターでは、和歌山県社会福祉協議会（以下、県社協）ならびに和歌山市社会福祉協議会（以下、市社協）との共創のもと、和歌山大学の防災力強化・人材育成の一環として、災害ボランティアセンター（以下、災害 VC）開設・運営訓練を主催します。

【実施背景】

- ・災害科学・レジリエンス共創センターでは、常設の災害ボランティア拠点となる機能「災害ボランティアステーション（むすぼら）」（3月11日発足）を備え、防災減災復興の担い手づくりに継続的に取り組む。
- ・大規模災害が発生した場合に、紀ノ川の横断が困難になる恐れがあり、北岸のボランティア拠点としての役割が、本学に期待されることが予想される。
- ・「避難訓練・被災状況確認訓練（発災直後対応）」、「避難所運営訓練（発災数時間後～）」とともに、「災害ボランティア対応訓練（発災数日後～）」も重要となる。
- ・県社協（和歌山県災害ボランティアセンター）では、県内を紀北・紀中・紀南の3ブロックに分けて広域同時多発災害に備えた災害 VC 運営訓練が、毎年1回実施されている。
- ・本年度、本学に価値共創研究員として県社協職員南出氏を迎えたことを機に、合同訓練の運びとなった。実施にあたり市社協の協力も得る。

【概要】

- ・紀北地域の広域で災害が同時多発したことを想定しており、県社協を本部として、同日時に開催されている海南市社協、高野町社協の訓練とも情報共有しながら進行します。
- ・20名程度が、災害 VC 運営役とボランティア役に分かれ、ロールプレイングを行います。
- ・災害 VC の運営の様子を、オンライン会議システム（Zoom）を用いて、県社協本部に中継します。また、県社協によって当該 Zoom 配信は、関係団体（県内市町村社協職員等）に公開されます。
- ・当訓練を通して、県域における災害支援の連携関係を築くことで、本学の防災力を高めるとともに、地域を学び地域で学ぶ、教育資源にも繋げることを目的とします。
- ・実施にあたり、新型コロナウイルス感染対策を十分に行い、今後の感染拡大の状況によっては、開催の可否も検討します。

日 時 : 令和3年2月20日(土) 9:00~12:00

実施場所: 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 応接会議室および学生オープンスペース

主 催 : 災害科学・レジリエンス共創センター

【実施体制】

責任者: 和歌山大学災害科学・レジリエンス共創センター長

参加教職員: 災害科学・レジリエンス共創センターにかかる教職員（6名程度）

学内の教職員に参加を呼びかける（10名程度）

学外協力者: 和歌山市社会福祉協議会 職員

県内の市町村社協中核支援者（運営支援者）

【訓練スケジュール】(2/12~2/20(13・14日を除く))

日時		災害時の流れ(想定)	訓練の内容	参加
2/12(金)	発 災	線状降水帯が発生し、局地的豪雨により中小河川の氾濫や土砂崩れ、家屋の浸水など被害が生じる。(紀北エリア広域) ・エリア内の被災状況を把握、対応協議 県社協は市社協に市内の被害を照会 和太は構内および周辺道路等の状況把握	被災状況を把握、対応協議 →県社協は市社協に被害照会	災害科学・レジリエンス共創センターのみ
~2/18(木) まで	災害 VC 開設 準備	市社協と和太が連携する ・災害 VC 運営マニュアル確認・帳票準備 ・ボランティア募集・事前受付 ・県社協から運営支援者派遣調整	・ Google Form を使う訓練 ※1 ・ 市社協-大学間の打合せ ※2 ・ 運営マニュアル確認 ※3 ・ 帳票準備 (市社協より提供)	
2/19(金)		災害 VC 会場設営	会場設営・市社協と最終確認 ※4	
2/20(土)	災 害 VC 稼 働	県社協からの運営支援者到着 災害ボランティア 運営開始 ニーズ把握 ボランティア受付・オリエンテーション マッチング・資機材貸出 活動(巡回) 資機材返却・活動報告	9:00 集合 Zoom 接続※5、運営支援者派遣 9:30 全体会・オリエンテーション 9:45 活動開始 ※6 運営役とボラ役に分かれて活動 運営役: 5つの班(各2名) ボラ役: ニーズ(被災者の困りごと)の解決策を話し合う (時間が余れば運営役・ボラ役交替) 11:10 各 VC でスタッフミーティング	学内教職員にも参加を呼びかける
		情報共有会議 社協・行政・民間協力団体などの情報共有	11:30 全体会・ふりかえり 12:00 訓練終了	

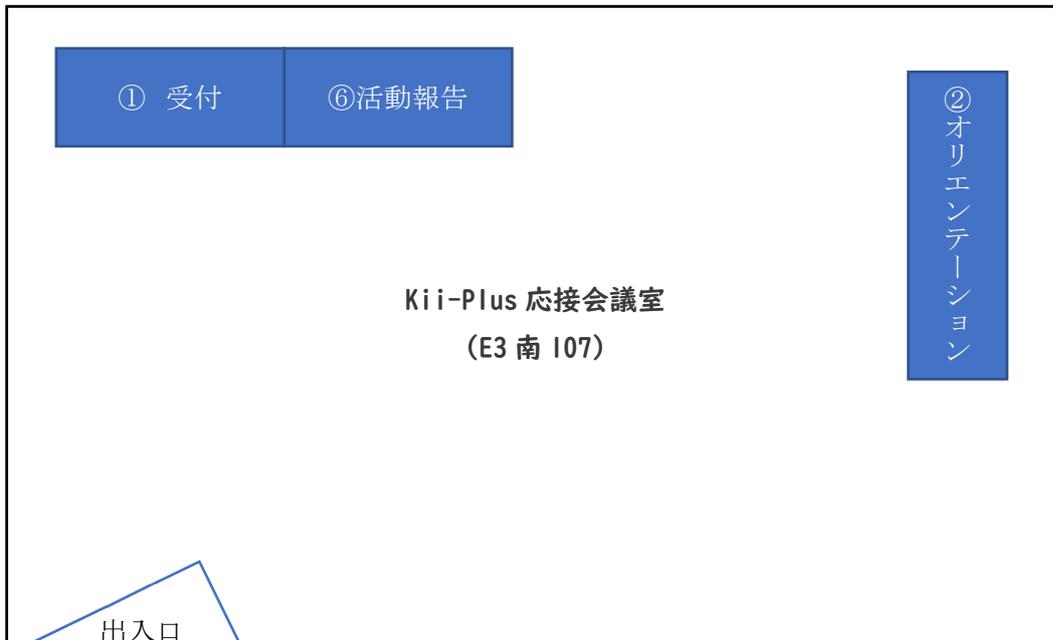
- ※1 発災時にボランティア募集を発信する想定で Google Form を使ってみるという訓練
(学内の訓練参加者を募るのは別途)
- ※2 市社協-大学間の打合せを Zoom で行う
- ※3 市社協に備えられている災害 VC 運営マニュアルを和太に共有してもらい調整する
- ※4 和歌山大学 Kii-Plus 応接会議室と学生オープンスペース(Kii-Labo)を使用 (配置案別紙)
- ※5 会議室と Kii-Labo に固定カメラ1台ずつ。他 VC と県社協本部を Zoom で結ぶ
- ※6 運営役 10名程度 5班×2名 (受付、オリエンテーション、マッチング、資機材、活動報告)
ボラ役 10名程度 数名ずつグループになってニーズ解決(机上シミュレーション)
(時間が余れば運営役・ボラ役交替)

配置案 東3号館（旧教育学部棟）南 103・107号室

災害VC運営役：①②③④⑥それぞれに2名ずつ配置し、ボランティア希望者への対応を体験する。

ボランティア役：①～⑥を順に回り、災害ボランティア活動参加の流れを体験する。

③で受け取ったニーズ（課題）の解決策をグループで検討する。



④ 資機材

